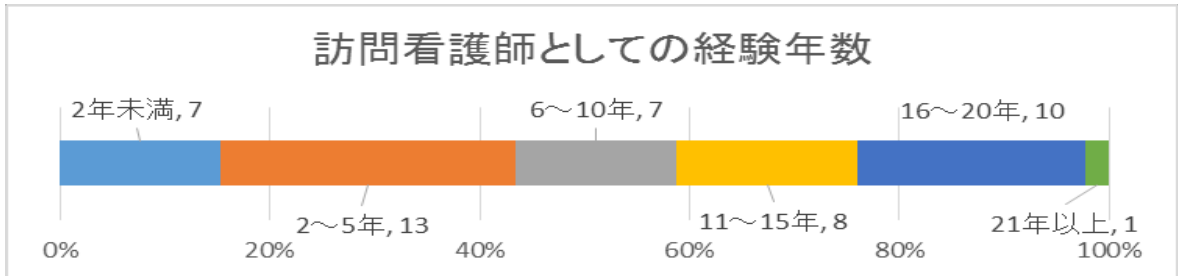


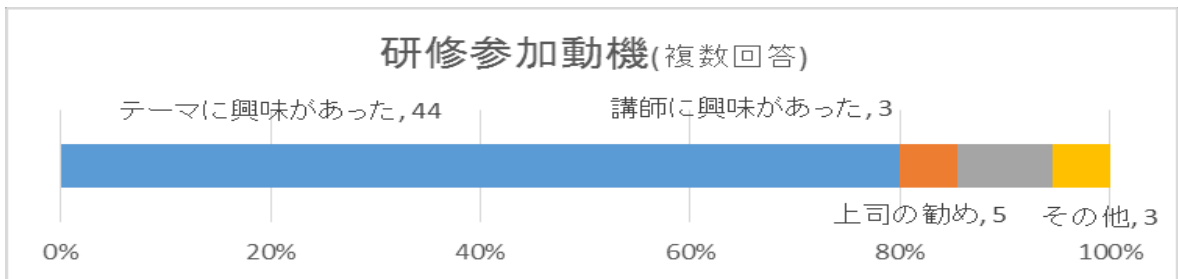
## 「がん患者家族が看護に望むこと」平成30年12月8日(土)

参加者数 65名 回収率 75.4%(n=49)



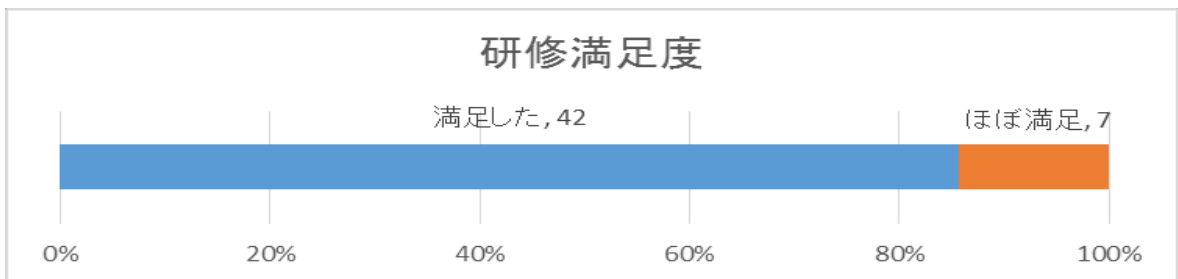
(その他記述)

- ・作業療法士：訪問リハビリで3年の経験



(その他記述)

- ・県訪看の研修だったから。



### 【本日の研修の中で特に感じたことや考えたこと】

- ・具体的に関わりの中からの声、真実が聞けて良かったです。ありがとうございました。
- ・患者が辛さ、特に精神的な辛さを医療者に言えないでいるので、それを伝えられる場、環境を作る事が大事だと感じた。
- ・沈黙もコミュニケーション。側にいる事が大切。患者の気持ちに寄り添う看護をしたい。
- ・感動しました。この話を医師に聞いて欲しいと心から思います。話すこと、伝えること

の奥の声にならないことに寄り添えるような存在になりたいと思いました。

- ・医療とは、人を幸せにするためにあるもの。聞く、訊く、聴く、聴す。勉強になりました。
- ・聞くことの大切さを感じました。とてもいい研修でした。
- ・今までいくつかのエンドオブライフの研修を受けたことがあったけれど、患者さん目線で考えたことがなく、とても衝撃を受けました。癌の方ばかりでなく、色々な疾病を抱えている人達に何が必要か改めて考えさせられました。
- ・当事業所内の利用者の中には、70~80才代の肺癌、直腸癌（告知済み）の方もいる。母体病院への通院できている方は、認定看護師と連携をとりながら訪問させているが、今回の研修で体に触れる、本人や家族の想いを聞く、受け止める、大切さを実感した。
- ・実際に癌で闘病された経験のある松本先生のお話でしたので、本当の癌患者様の気持ちが伝わりました。癌患者さん、ご家族の希望を聞き、どうしたいのか、どう生きる事が幸せなのか聴きとる力をつけていきたい。と思いました。
- ・癌患者さん一人一人は人格が一人一人違い、思い、希望も違うので、一人一人に寄り添い話を聞いていく、また話してもらえ人間関係を作っていくことが大切だと思った。
- ・患者本人、家族の想いを傾聴する。共感することが大切。訪問看護師としてどうすることがその患者の支えになるか、多くの事例（経験）から学びを深めていこうと思いました。講師の先生の実体験はすごく参考になりました。多くの患者さんの声を聞かせて頂き、ありがとうございました。明日からまたよい看護が出来るよう頑張ります。
- ・「聴す」という言葉の意味を知りました。言葉でないコミュニケーションの必要性。
- ・医療者の考える最善>患者の希望 相互理解
- ・その人への「人間的な感心」コミュニケーションについて考える。
- ・がんサバイバーの方々のご自身の話ってあまり聞いたことがなかった気がする。とても良い、考える機会になりました。
- ・がん患者のみに関わらず、どんな病気であってもその人らしい人生を全うできれば良いなと感じました。
- ・看護していると、何とかしなければ、何をしてあげたら良いのかと考えがちですが、「聴し合う」ことを大切にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・日々の看護の振り返りになりました。ただ、今日の話は壮年期の方の話が多かったのですが、実際には80代以上の方、看取りの時期の方が多く、数週間から1ヵ月程の短期のかかわりの方が多く、信頼関係を築くほどの時間的な余裕がない場合が多いです。
- ・同じ年齢なのに、松本先生はとても美しくキラキラしていました。なんだか得した気分になりました。信念をお持ちになって活動されている姿に、細いお体なのに強さを感じました。「否定しない」強さを私も持ちたいです。ありがとうございました。
- ・今まで関わらせてもらった患者さん、利用者さんを振り返り学び感じる事が出来ました。特に脱毛の話、つらさを伝えられる環境は思い出される場面がありました。経験が

増えていくと沈黙が苦手になっていると自分自身が思ったので、明日からまた沈黙の技術を改めて意識しようと思います。

- ・何気なく励ますつもりで言った言葉が相手を傷つけている場合もあるという事を改めて考えさせられました。
- ・医療処置をすることだけが看護師の役割ではなく、人として患者さんのそばでよりそうことも看護の1つということを学びました。
- ・何度か自分の経験で感じたこととだぶり涙が出ました。また寄り添っているだけでいいのか…と自問自答することがあるので、今日それでもいいことを確認できたのでよかったです。
- ・多くの『生の声』を聞くことができ、とても勉強になりました。今後に生かしていきたいです。ありがとうございました。
- ・患者、家族の思いが聞けて良かった。思いを聴き、否定をせず、その人の人生を支えられればと思った。
- ・まだまだ医療者目線であることに気付かされた。(Dr に言える、言えない…etc) 聴す一義務や負担を免除する。役割をゆるめて対人間として関わられるように、人間力を高めたいと感じた。
- ・沈黙もよりそう事も大切な看護である。
- ・あまり患者(利用者)と関わったことがないため、様々な意見交換ができて良かった。「きく」環境を大切にしたいと思う。
- ・看護師であり、患者でもある私にとって、患者の思いを切実に聞くことができて本当によかったです。講演やグループワークの中でプロとしてアドバイス適当な返答を心がけていたのですが、沈黙というケアがあると気づかされました。
- ・コミュニケーションの大切を感じました。相手(癌の利用者)の思いを感じられるように信頼関係も大切だと感じました。どうしてもNSの立場で考えてしまう思考になっており、松本先生の具体的なお話を聞き、「こんな考え方があるのか!」と考えさせられました。ありがとうございました。
- ・グループケアについての研修
- ・看取り後の(経験の共有)カンファについてどうしていくのか??
- ・実際の体験を元にしたお話や患者さんの生の声(思い)を聞く事ができとても参考になりました。グループワークでもいろんな考え方を聞く事ができました。勉強になりました。とても有意義な時間でした。本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・自分の看護を見つめる機会となりました。ありがとうございました。
- ・患者、家族の希望を聞いて、皆が良い方法(治療)が出来ればいいが、なかなか難しい面があると改めて思いました。
- ・私自身も癌となってやっと1年が過ぎました。今も半年に1回がんセンターに通っています。抗癌剤の使用はしませんでした。先生もおっしゃっていたように「胃が痛い。

癌かな？大丈夫かな？」と思うことがあります。自宅での看取りに対して自分の状況を考えながら利用者さんへ対応してきましたが、まだまだ沢山の利用者さん家族の考え方がそれぞれあるので、日々コミュニケーションタッチケアを行っていききたいと思います。

- ・時間の余裕がなかなか取れず、現状は休み時間を使い、患者、家族との会話（傾聴）をしています。これからの課題です。
- ・がん患者さんは医療者に言えない思いがあること。医療者はきく力が大事だということ。
- ・紙面上や声（発言）に対してどういう意味があるのか、想像する時間が必要と思えた。「どこまで気を付けて行動にうつせるか」増々の課題です。ありがとうございました。
- ・患者、家族側からの考えや思いを先生の経験からお聞きすることができて良かった。今後日々の業務にいかしていきたい。緩和ケアの現状、課題等すべて良かった。
- ・患者家族会の立場の先生のご講義が聞けたことがまずありがたく感じています。患者に近い立場としてとても参考になりました。
- ・日々の仕事の中でがん患者さん、ご家族と接することが多くあり、私自身悩み、後悔することもたくさんありました。今回、先生の貴重なお話をお聞きしてとても参考になりました。これからの訪問にいかしていきたいと思います。
- ・患者さんからの医療者側への望むこと、心にズシリと感じました。訪問看護師として少しでも心に寄り添えるようこれから頑張ろうと改めて思いました。
- ・医療者側の講演を聞く機会は多いが、患者、家族の皆さんの思いを聞くことは少なく、とてもよかった。勉強したいです。人間としてのつながりを大事にしたいと思います。
- ・訪問の仕事の中でも、がん、ターミナルの方と関わりは多いので患者、家族様サイドの意見、思いをより知ることができて良かったです。昨年実母をがんで看取り、現在実姉ががん疑いとの状況にて家族としての思いもよくわかるつもりです。
- ・昨年父が入院し、患者の家族の立場を経験し、医療がこんなにも患者側の我慢の上に成り立っていると実感していました。また、なかなか患者様に満足いく医療を提供することが難しいと感じました。今日話を聞いて、1人のNSとして患者にあたたかみのある存在になれたらと思いました。
- ・患者（利用者）と看護師との距離、信頼関係の大切さを改めて感じています。ただ残念なことは、医師との関係性が難しい。
- ・聞く、訊く、聴く、聴すの言葉が重要と強く感じ、患者の気持ちをくみ取ることやぬくもりを伝える事を大切にしたい。色々な事例を聞く事が出来とても良かったです。
- ・研修全体を通して感じたのは、自分自身の人生観、死生観を問われているということです。ターミナルに関わって30年近くになりますが、きっかけは父の死だと。講師の経験にも重なる部分が多く、医療者としての自分と、父の終末期のことが自分の内でおさまっていない自分の葛藤は未だに続いている中で、誤解を怖れずにいこうと自身を癒す旅なのかとも思ったりします。
- ・患者さんの辛さ、孤独を知ろうとする。何か出来ることがないか考えを尽くす。その繰

り返しで、患者さん、家族が求める関わりに近づけるのではないかと思いました。これからも、できることは少ないかもしれないけど、人として看護師としてまっすぐむきあっていきたいと思います。

- ・自分より若い方の訪問看護は特に何をしてあげたらと悩みます。
- ・今自分自身が複雑な立場にいます。色んな意味で大変勉強になりました。涙して聞きました。がんばりたいと思いました。

### 【今後企画をして欲しい研修】

- ・困難事例への対応。制度を分かり易く教えてほしい。
- ・患者さんの生の声を聞けるという事はとても貴重なことだと思います。がんに限らず、他の病気を経験した患者さんやご家族の話を聞きたいです。
- ・家族看護
- ・今回のようないい研修を期待します。
- ・今日研修に来てよかったと思っています。本当にありがとうございました。
- ・また聞いてみたいと思います。
- ・精神看護について。臨床心理士、カウンセラーの先生の研修も企画していただけたら嬉しいです。
- ・在宅緩和ケアについて
- ・今回のような内容を、訪問看護入門コースなどにも取り入れてほしい。
- ・また松本先生の講演うかがいたいです。
- ・タクティールケア、マッサージなどの実技研修を受けたい。
- ・いつもありがとうございます。

### 【講師への質問】

- ①皆がフラットで生きるべきだと、私は思っていますが、病気になったり、障害をうけたりとたんに上下関係が出来てしまうのは理不尽。その辺りどうお考えですか？
- ②遺族のフォローとして行っている事があればお聞きしたい。